空間価値高め 快適な生活

第28回 すまいる愛知住宅賞

ゆとりある住まい特集

企画・制作／中日新聞広告局

愛知県知事賞

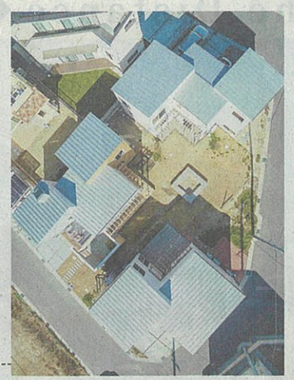
人と地域にゆとりや安らぎを与える住まいをデザインした設計者を表彰する「第二十八回すまいる愛知住宅賞」（愛知ゆとりある住まい推進協議会、中日新聞社主催）の入賞者が決まった。応募総数は四十八点。脇坂圭一さんらが設計した愛知県知事賞の「ソトマで育てる、ソトマでつながる」など七作品を紹介する。表彰式は二十七日、名古屋市中区役所ホールで開かれる。

〈設計者〉名古屋大学脇坂圭一研究室／ヒュッゲ・デザイン・ラボ＋笹野空間設計　脇坂圭一さん、斉川尚樹さん、神谷亮賢さん、服部奨馬さん、笹野直之さん

◆ソトマで育てる、ソトマでつながる◆

「ソトマ＝外の居間」

自然に心が通い合う空間



上室内から眺められるソトマはコミュニケーションの場　左箱形の3棟が緩やかにソトマを囲む＝撮影：吉田誠／日経アーキテクチュア

にそれぞれ二階建ての家を建てた。空きスペースに一面芝を張り、「ロ」の字形の木製ベンチを置き、その内側に砂場を設けた。この庭が「ソトマ＝外の居間」。誰が言うともなく、三家族が自然に集えるコミュニケーション空間だ。

三家族は血縁関係はなく、もともとの知り合いでもない。ただ三夫妻とも幼い子どもがいて「隣近所は顔なじみの環境で育った」という共通点があった。

「お隣さんに野菜の育て方のアドバイスをもらった」「花火をしていたら子どもたちが集まってきて一緒に楽しんだ」と交流の輪が広がっている。

郊外の新興住宅地。敷地と道路との境にも塀や門は無く、開放的だ。道路につながる共用の「ソトマ」は、子どもたちが伸び伸びと走り回れ、鬼ごっこもできる。妻の一人は「常に人の目があるから安心なんですよ」と満足そうだ。

家は三棟とも、四角形の箱を二～四つ組み合わせたような形。白が基調の外観、「ソトマ」を見渡せるウッドデッキやパーゴラ（日陰棚）も共通で、統一感がある。どの家のキッチンからも「ソトマ」を眺めることができる。

キッチンからソトマを見る

一方、家の中はそれぞれの個性が生きている。リビングからバイクをゆったり見ることができるガラス張り車庫、バーベキューを楽しめる広いウッドデッキ、コックピットのように少し突き出たキッチン…。家族の希望を反映させた。

このプロジェクトは、学生対象のコンペで最優秀に選ばれた作品。名古屋大の環境分野の専門家が風の流れや断熱性を調査、研究し、窓の位置などが考えられている。

木造2階建て▽延べ床面積111平方㍍、122平方㍍▽日進市

審査委員（敬称略）

委員長	
古谷　誠章	早稲田大教授・(有)NASCA 一級建築士事務所代表取締役
委員	
笠嶋　泰	大同大名誉教授
松原小夜子	椙山女学園大教授
谷村　留都	アールアンドエス設計工房
廣瀬　高保	(公社)愛知建築士会会長
久保田英之	(公社)日本建築家協会 東海支部愛知地域会地域会長
朝岡　市郎	(公社)愛知県建築士事務所協会会長

総評

審査委員長をお引き受けしてすでに八年目となりました。毎年のことですが、ますます応募作品の質が高まっているのは、私たちにとっても大変幸せなことだと感じます。

今年ひときわ顕著に感じたのは、人々の住まいというものが、単に成熟しているだけでなく、それぞれにすみかと定めた土地に深い愛着を持ち、そこに暮らす喜びをクライアントが望み、建築家の一人ひとりがそれに真っ向から取り組んだ、その二人三脚ぶりに一つとして同じものはなく、独創的で世の中に唯一の充実した提案に結実したことです。立地が変われば当然そこでのベストアンサーも変わり、またクライアントが違えば、当然求めるものも異なってきます。模範解答を引き写して設計ができるというものではありません。

早稲田大教授
㈲NASCA一級建築士事務所代表取締役
審査委員長　古谷　誠章

独創的で唯一の充実提案

中でも今年の大きな成果は、複数の家族が隣り合って暮らすそんな住宅どうしの関係にアイデアの練られた、優れた「売り建て住宅群」が誕生したことです。愛知県知事賞を受賞した「ソトマで育てる、ソトマでつながる」は、分譲の敷地境界を取り払った豊かでほほ笑ましい外部空間が素晴らしい計画です。三軒いずれのキッチンからもこの「ソトマ」を眺められ、また、重ね合わされたボックスというイメージを共有しながらも、それぞれに間取りが異なり、また金属外装も少しずつ異なる手法でデザインされています。建て売り住宅がただのバリエーションの違いでなく、豊かな個性を持ちつつ全体をシェアする感覚が実現されています。

すべての作品にふれる紙幅がありませんが、名古屋市長賞の「透明な軸線」はまさにゆとりある立地条件を生かして、秀逸な建築のデザインと丁寧な職人技術に恵まれた住宅、また「Refill―詰め替える」なども長く住まれてきた名古屋の都市部に、将来にわたって住み続ける希望をかなえた建築家の力量と良心が印象的でした。

どの作品も他には無い独特の魅力を持ち、幸福に愛知に暮らす確実な基盤が築かれていました。